

第2回三田市教育委員会点検・評価委員会 会議録

- 日 時： 令和3年7月7日（水）10：00～10：47
- 場 所： 三田市役所南分館6階 601A会議室
- 出 席： 大久保委員長、藤原委員、藪田委員
- 事務局： 松下学校教育部長、外岡学校教育部次長、浅野教育総務課長、上野教育総務課担当課長、山本学校教育課長、山口教育支援課長、小山教育研修所長、廣瀬学校給食課長、鈴木教育総務課主任、松田教育総務課指導主事

1 開会

- ・会議の公開 公開とする。
- ・委員長あいさつ

前回に引き続き、よろしくお願いします。6月28日、千葉県の小学校で、児童がトラックにはねられた死亡事故がありました。現職だったころ、下校中に生徒が亡くなる経験をしており、事故現場のことを思い出しました。学校も危険個所を確認しているが、改善に向けて学校だけではどうしようもないこともあります。教育委員会の支援も必要になってきますので、支援をお願いしたいと思います。

前回は、丁寧な説明をありがとうございました。今回もよろしくお願いします。

2 確認事項

- (1) 議事録の確認
浅野課長説明

3 議事

- (1) 点検評価委員の意見について
浅野課長説明

委員意見交換（詳細はP2～）

4 閉会

- 松下部長 あいさつ

【委員意見交換】

委員

世の中の状況が変わってきており、社会の変化が激しい中、先生方は大変である。子どもたちにしわよせがいかないか心配している。

そこで何が必要か、地域との連携がますます必要ではないかと思う。いろいろな立場から子どもたちを支えることが必要。コミュニティ・スクールに関わっているが、幅が広がったと感じており、勉強させていただいた。いろいろな事を勉強しつつ、子どもたちのために、学校と地域と協力して、子どもたちにとって、居心地の良い環境づくりに取り組みたい。

委員

去年はコロナがあり、いろいろなことができない中、積極的に活動をしていることはよかった。

全国学力・学習調査が実施されなかったことを受け、実施なしとなっているが、市独自の取組があればよかったのかと思う。

ICTについて記載されており、実際タブレットを使った教育もスタートしている。

高校生における事例だが、インスタグラムに上げた画像を別の人が流用し、拡散してしまい、警察も動く事態になったことがあった。

タブレットを使った教育を進めるにあたり、情報リテラシーや、何が良くて何が良くないのか、このような内容のインターネット研修をしていると思うが、子どもたちに伝わっていないのではないかと、子どもたちは先をいっている。もっとリアルタイムで、教育をしていかないと、いじめや不登校にもつながることだと思う。

これから小学1年生からタブレットを使うことになると、そういったところも、力をいれてもらいたい。全体的には、がんばっていると評価した。

委員長

教育委員会の活動について、卒業式や入学式に行かなかった点は、気になった。現職の経験で、教育委員会が、来賓から学校側に座ることがあった。学校と教育委員会が並んでいることは、保護者からは、一緒になっている感があった。教育委員会が学校に来て、来賓を迎える立場として、対応している方もいた。

コロナ禍、学校に行った方がいいのかわからないが、気持ち的には、主催者側として行ってもいいのではと思った。教育委員会が学校側に座ることについて、最初は違和感があったが、学校と同じ立場でいてくれたことは、よかった。教育委員会は、学校現場との違いはあるが、検討をお願いしたい。

次に、確かな学力について、今年是全国学力・学習調査があった。決して、平均点だけにこだわらないでほしい。格差ができてはいけない。度数分布で、ノーマルカーブでも、分布の山が2つできても、平均点は同じになる。度数分布の分析もしてもらいたい。

一人学びの手引きについて、GIGAスクール構想もはじまり、家庭学習も入ってきたので、改訂をしてもらいたい。一人学びと、一人で籠ることとは違う。GIGAスクール構想の実現は、下手したらそのようになる。

のびのびサポートファイルについて、ホームページからダウンロードをした。あれだけ丁寧なことをつないでいることは、本人にとっても、保護者にとってもよいことなので、継続してもらいたい。

コミュニティ・スクールについて、文科省のコミュニティ・スクール要綱を見た。文科省の意図は、経営の中に踏み込んでいる部分もある。三田型は踏み込んでいないので、もう少し踏み込んでもらいたい。

学校地域運営協議会の委員の研修については、コロナで実施できなかったと思うが、研修、交流を考えてもらいたい。現職でやっている方は、バタバタして忙しい。学校地域運営協議会の委員は、委員報酬は発生しているのか。

事務局

報償費になると思う。

委員長

やっている方は、報償を望んでいないと思うが、踏み込むにはボランティアとしては無理だと思った。

文科省の意図に沿って踏み込めば、学校地域運営協議会委員の責任は重くなる印象である。無責任な立場では言えない。そういった報償費も考えてもらう必要があると思った。一度は前向きに検討してもらいたいと思う。

委員

情報モラルは大切だと思う。早く教えてダメなことはない。年齢に応じて教える必要はあるが、子どもだけではなく、保護者への啓発・周知も大切である。

コミュニティ・スクールについて、学校地域運営協議会に出ているが、学校について普段から知っていないと、踏み込んで言えない部分がある。人選は大事だと思う。管理職の先生によっては、踏み込んでほしくないという印象を受ける。こちらとしても、どこまで踏み込んでよいか…という点が難しい。ぜひ活発に意見を言えるように、決まった形の報告会ではなく、地域と学校の課題を伝え合う、会があればと思う。

事務局

情報モラルについては、ご指摘のとおりである。スマホについてもタブレットについても便利な反面、人を傷つける可能性がある。学校も発達段階に応じて、粘り強く、繰り返し教えている。

保護者への啓発も大切であり、ルールや決まりを家庭で定期的に点検・確認してもらいたい。PTA 総会や学年懇談会の機会に三田警察に来ていただいたり、企業の社会貢献活動として講師派遣を使って、親のニーズにあった啓発活動に努めている。

コミュニティ・スクールの活性化について、どの学校も思っている。それぞれの学校長が模索している。いろいろな課題があるが、学校だけでは解決しないことも多い。学校・家庭・地域で育てたい子ども像を共有し、情報連携したりする中で、コミュニティ・スクールが核になると思う。報償費、やり方、いろいろな課題は認識しているが、連絡・連携を進め、活性化し、29校を支援していきたい。

松下部長

2回にわたる委員会、ありがとうございました。また、たくさんのご意見も、ありがとうございました。委員の皆さまが、子どもを思う気持ちをたくさん感じることができました。

変化の激しい社会の中で、教育に取り組むにあたり、今年の評価の中には、新しいキーワードなども出てきています。子どもたちだけではなく、子どもの学びを支えている先生の疲れがでてきていないか等についてもお言葉をいただきました。

その基本には、子どもの将来を思う気持ちがあったと思います。委員の皆さまには、子どもへの愛をたくさん感じることができました。

教育委員会としても、視野が狭くならないように、客観的に見ていただき、そして評価していただく、このような機会は大切だと感じています。変化の激しい社会を乗り越えるために、いただいた評価を大切に、今年も頑張っていきたいと思います。

閉会（10：47）